



保育士
有村 沙由理

絵本の読み聞かせの魅力

梅雨の晴れ間に夏の気配が感じられる頃になりました。福田病院に隣接しているコアラ保育園（職員専用保育園）では毎日の保育の中で絵本の読み聞かせを行っています。朝のお集まりの時間や午睡前のゆったりとした時間に、月齢に合わせた絵本の読み聞かせを行っています。今年度私は、コアラ保育園の3歳児クラスの担任をしています。子ども達は絵本が大好きで、読みたい絵本をリクエストしたり、読んだ後にお話のストーリーの余韻に浸ったりと子ども達との絵本の時間を楽しんでいます。私にとって子ども達との大切な触れ合いの場面でもあります。今回は絵本がもたらす効果や読み聞かせの方法を紹介いたします。

絵本がもたらす効果とは

① 親子でコミュニケーションがとれる。

読み聞かせは、親子のコミュニケーション不足を解消させてくれます。絵本を読む声は子どもに安心感を与え、肌のぬくもりや匂いを感じるにより親子の愛情を感じることができます。親と子どもとの読み聞かせの中でお互いの表情を読み取り気持ちの共有も行えます。

② 感情を豊かにする。

色彩豊かな絵を見るだけでも、楽しい、ワクワクするといった感情が生まれます。登場人物の感情に移入して、喜びや楽しさ、悲しみや怒り、ドキドキ感などを抱き、子どもの感情を豊かにしてくれます。

③ 想像力を育てる。

絵本のストーリーを考えたり、絵本を通じて人の心の変化を知ることができる感情が豊かになります。相手の気持ちを考え、思いやりが持てるようになるため、想像力が育ちます。

④ 語彙力がアップする。

まだ字が読めなくても、絵本の読み聞かせを繰り返すことで、絵本の言葉を真似し、耳から言葉を覚えます。次第に自分の言葉として使うようになりコミュニケーション能力を高める事に繋がります。

⑤ 集中力が身につく。

読み聞かせは子どもの集中力が身につけていきます。読み聞かせを続けていくことで最後まで聞くことが出来る力を身につけられます。



絵本の読み聞かせは0歳の赤ちゃんでも効果があります。まだ早すぎるのでは？と思われがちですが、絵本の色彩を見ることは脳への刺激を与え発達させてくれます。

0歳の赤ちゃんの場合は、安心できるように膝の上で抱っこするか、赤ちゃんと視線が合う姿勢で読んであげてください。0歳の赤ちゃんには絵が大きくシンプルな絵本を選び、ゆっくりと子どもの興味・関心に合わせて行くと良いでしょう。

1歳児以降は子どもの成長に合わせた絵本を選ぶとよいでしょう。個人差がありますが指差したり、笑い声がでるようになり言葉を実感するなど絵本に対する反応が出てくる時期になってくると思います。好奇心を刺激する仕掛け絵本や、音・リズムを楽しめるもの「ザザー」「ワンワン」「トントン」などの言葉がある絵本や、見て触って楽しめる絵本も良いと思います。2歳になったのに絵本を理解してくれないと焦らず楽しく絵本の読み聞かせを行うことが大切です。

2歳児になる頃には言葉の発達が著しく記憶力や集中力もアップします。絵本のストーリーを楽しめる様になってくるので主人公に感情移入できる絵本を少しずつ取り入れていくのも良いと思います。一度で理解することは難しいのでくり返し読み聞かせ、子どもと楽しめるようにしましょう。

3歳児は2歳児よりも、さらにストーリーを重視した絵本も理解できるようになります。言葉だけでなく感情の発達にも絵本は効果的です。複雑なストーリーを選ぶよりもシンプルなストーリーを選ぶと良いと思います。

4.5歳児になると、さらに長いストーリーや非日常的ファンタジーな絵本なども理解し、想像力も強くなります。

もちろん個人差がありますので、子どもが興味をもった絵本が一番楽しめる絵本であることを忘れないでください。また、絵本の読み聞かせを強制しないことも大切です。子どもが選んだ絵本を拒否したり、大人が選んだ絵本を押し付けると、読み聞かせがいやになります。読み聞かせが楽しい！また読みたい！と子どもが思えることが大切です。

絵本を通して親子の楽しい時間をぜひ共有してください。

